

日本あちこち河川遡行記（第285回）

奈良1-6-3. 高取川（その2） 令和1年9月6日（金）晴

今日も高取川の続きに出かける。金曜日でいつものこだまのいつもの号車に乗る。旅行会社の団体客が大勢乗っているぞ。同年代の夫婦が多いな。

難波駅に着いたのが9時45分。10時には名阪特急が出るが10時発は途中大和八木に停まる。たまには贅沢をするか、と特急券を購入して地下2階のホームに降りる。名阪特急は難波発毎時00分発と30分発があり、00分発は途中上本町、鶴橋、津のみ停車で一部は八木にも止まる。30分発は桑名、四日市、白子、津、名張、八木、鶴橋、上本町と多くの駅に停まる。かつては甲特急、乙特急と言っていた。大阪～名古屋間2時間を目指し上本町を出ると鶴橋に停まり、その後は名古屋までノンストップであった。途中の津の手前の大阪線から名古屋線を繋ぐ連絡線の徐行区間で運転手と車掌が交代し、後半は運転手は車掌に、車掌は運転手に変身する。子供の頃歌った「僕は運転手！君は車掌！・・・」は通用しない。半世紀以上前には何度も乗ったアーバン特急である。

中学生の頃伊勢湾台風で近鉄名古屋線は大きな被害を受けた。当時の佐伯社長はかねてから計画していた名古屋線を狭軌から標準軌に改軌するのを、災害復旧と同時に短期間で実施する号令を発し昭和34年11月完成させた。12月にはこれまで伊勢中川で乗り継いでいた名阪特急は乗り換えなしの直通特急として走り始め、当方はその最初の電車に乗り初めて名古屋に行った。名古屋市営地下鉄の名駅から栄町まで乗車し、御堂筋線の規模に比べ小さな車体と短い運行距離と簡素な駅にびっくりした覚えがある。100m道路を造った市とは思えない地下鉄であった。



01.今回調査区間位置図



02.難波から50年ぶりに名阪特急に乗る

10時29分大和八木駅に到着。これまで何度も通過した駅であるが下車するのは初めてである。立体交差の上は大阪線、下は橿原線が直交している。京王

明大前、小田急・京王の下北沢等と同じ交差であるが、八木は上下とも有料特急が頻繁に停車する駅であるのが大違いである。

1階に降り改札口を出ると八木駅付近の電照観光絵地図が、その隣には見慣れないキャラクターが並んでこっちを見ている。男の子は「こだいちゃん」、女の子は「さららちゃん」と言っているようである。帰宅してから調べると、二人とも橿原市観光PRキャラクターで、こだいちゃんは頭に大和三山を示す烏帽子をかぶり、古代人の服装をしているとのことで、さららちゃんは藤原京を創った「持統天皇」の幼名から命名し、背中には橿原市の市章の金の羽（金鷄）を背負っている。あんまり可愛くないな一。



03.八木駅構内に有った絵地図



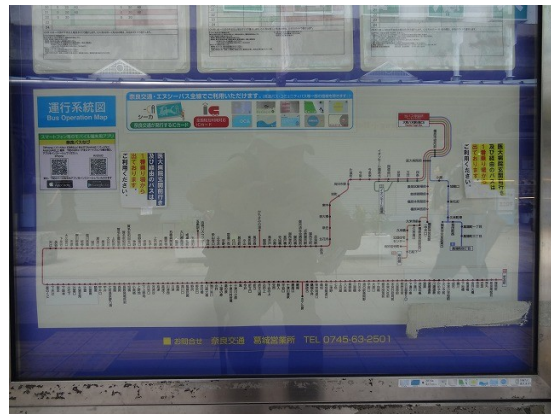
04.「こだいちゃん」は橿原市の観光PRキャラクター



05.「さららちゃん」は持統天皇の幼名から

ガード下の喫茶店で早い時間の昼をモーニングセットで食しバス乗り場に向かう。高取川の次の5番目の橋近くの五井バス停を通るイオンモール行きを待

つ。同じ乗り場から出る最長路線バスの新宮行きはここが始発である。そのバス停一覧が有るがその数の多いこと、運転台後ろの料金表示装置に記載できるのだろうか？



06.1 日 3 便の新宮行きはここから
出発する

07.新宮までのバス停の多いこと！

10 分置きぐらいにやって来るバスに乗り国道 166 号の五井で下車。東行きのバス停は目指す「高取川橋」の直ぐ西に有るが、西行きは遥かに西に有り、バス停一つ分ぐらい離れている。

道路に降りると今日も暑いぞ。手元の温度計は 33 度を超えているぞ！2 車線の車道橋の両隣に歩道橋を追加した典型的な例の橋で、歩道橋がびっちりくっ付いているので車道橋の橋種、状況が見にくい。

左岸側の土手道を南に向かう。今日の遡行区間は市街地を流れる川で橋の数が多。しばらく進むと土手道の舗装が無くなり草ぼうぼうの区間となる。通路には土手の隣の持ち主の車と思われる車が邪魔をしてくれる。土手道は河川管理用道路のはずだが、この区間は民地なのかも知れない。



08.土手道が車の置き場に

国道 24 号が川を越える所に来る。立体交差の 4 車線の本線の両側には歩道付きの 1 と 2 車線の側道橋が架かっている。その東行き側道橋の直ぐ下流側に狭い 1 車線の PC 橋が有る。この耕作道の橋の橋歴版を見ると建設省近畿地建となっている。側道橋の方を見るとこれも近畿地建でどちらも 1987 年施工と記載されている。同じ時期に超近接地点に橋を架けるとは勿体ない！多分国道通過地点に元々橋が有ったので機能保障として新橋を少しずらして作ったのだろうか、直ぐ目と鼻の所に側道橋を架けるのなら無駄なことだが・・・。

24 号を潜ると南に独特の形をした「畝傍山」がくっきりと見える。



09.手前の耕作道路橋は勿体ないなー 10.「畝傍山」の全貌が良く分かる所に

家並みが途切れ田園風景の中、少し痛みが出る右踵をかばいながら歩く。南西の彼方には今日も葛城山と金剛山が見える。大和平野を南北に流れる多くの川を歩いて来るとこの二山は常に天候さえ良ければ見える。



11.この 2 山は何度見たことか、まだまだ見そうだ

畝傍山の山麓を進むと久しぶりの木橋が周りの景色に溶け込んで佇んでいる。景色との相性抜群の橋である。橋の東側の山麓はこんもりと木が茂る御陵になっている。3 代天皇の「安寧天皇陵」である。「畝傍山」の北山麓には初代

「神武天皇」の、その北には2代の「綏靖天皇」の、「安寧天皇」の東の山腹には4代の「懿徳天皇」の御陵がぐるりと取り囲んでいる。山から少し離れた南西には「宣化天皇」の、南東には「孝元天皇」の御陵と橿原市には多くの御陵が有る。隣の明日香村にも「天武」、「持統」、「文武」天皇の御陵が、高取町には「斉明」と「岡宮」天皇の御陵と目白押しである。



12. エッとぶりの木橋に出会う



13. この森は「安寧天皇陵」の西の端

近鉄南大阪線の踏切の警報機の鳴る音が南風に乗ってやって来る。線路に近くなると2両編成の特急がやって来たので彼方の2巨頭をバックにカシャ。ついでに二上山をバックに急行も駄賃に撮っておく。



14. 両山をバックに2両の特急が通過



15. 二上山をバックに急行が通過

今日も甲案から丁案迄用意してきたが丁案の「橿原神宮西口駅」でギブアップする案は破棄して川から離れ東側の踏切に向かう。

昨日京急の快特が踏切で動けなくなったトラックに衝突した大事故が起こった。第一義的にはトラック側に責任が有るが、非常警報装置が直ぐに作動したのに120kmで走行していた快特が相当な速度で衝突している。在来線ではブレーキ距離600m厳守で最高速度が決められているが、踏切の相当手前に設置

された非常点灯を直ぐに視認し非常ブレーキがかかれば踏切の手前で停車するはずである。

数年前に山陽線の西阿知～新倉敷間で大型トラックが踏切内で動けなくなり下り電車がぶつかり、乗客1名と運転士が無くなった事故があった。どちらも当方は電車の運転士の視認が遅れたと考えている。これまで全国の鉄道に乗り運転席の後ろに居ることが多いが、99%以上の運転士は前方注意を怠らず運転しているが、慣れた線路でよそ見をしている者を見かけたことが有る。どこでブレーキを掛けたのかが判る機能が必要で、究極は非常警報が作動すると電車のブレーキが自動的にかかる装置の装備が必要である。

住宅地の中を進むと濃い青紫の小花が多く咲いている。秋は青と紫色の花が多く咲くが、咲くやこの花は何だろう。



16.この素敵な青紫の花は何だろう？

踏切を越えると川は南東方向からとなり、両側に中の上クラスの家が並んでいる。左岸側は広い白樫団地に、右岸側は1戸住宅が並んでいる。川沿いの道には川側に多くの花と桜並木が続いている。素敵な歩行道である。



17.コスモスと萩、秋がやって来た



18.川沿いの道は花道だ

クランク状に川は曲がり近鉄「岡寺駅」前まで来ると左岸側にこんもりとし

た丘と鳥居が見える。その鳥居の前に架かる橋の名前は「天神大橋」。

甲案は「壺阪山駅」まで遡行、乙案は一駅手前の「飛鳥駅」まで、そして丙案は眼前の「岡寺駅」までである。足が悲鳴をあげそうなので無理をせず丙案を採用して駅に潜り込む。1時間に2本の急行が先ほど出ていたので20分ほど冷房の効いたホームの待合室で体を冷やし電車を待つ。残りの区間は次の「飛鳥川」の時に何とかすることにする。



19.天神さんの前の橋は「天神大橋」



20.丙案の「岡寺駅」で打ち止め！

本日の歩行距離：6.5km。調査した橋の数：30。

総歩行距離：10,541.2km。総調査橋数：13,551。

使用した1/25,000地形図：「桜井」（和歌山1号-4）、「畝傍山」（和歌山2号-3）